

観賞温室第2室 企画展示

- 1月4日(日)～2月1日(日)
「新潟の古典園芸植物展・植物と冬のしごと展」
- 2月4日(水)～3月8日(日)
「にいがたの花 アザレア展」
- 3月10日(火)～4月5日(日)
「にいがたの花 チューリップ展」

観賞温室第3室 住宅内展示

- 1月4日(日)～1月18日(日)
「人と環境に優しい飾り炭」
出展:炭小屋
- 1月20日(火)～2月8日(日)
「花の可能性を探るフローラルアート」
出展:新潟農業・バイオ専門学校 園芸デザイン科
- 2月10日(火)～2月22日(日)
「植物園友の会写真展」
出展:新潟県立植物園友の会
- 2月24日(火)～3月8日(日)
「四季の花」
出展:戸塚刺しゅう新潟支部
- 3月10日(火)～3月29日(日)
「外山康雄水彩画展」
出展:野の花館 外山康雄

観賞温室第3室 特別展示

- 2月17日(火)～3月1日(日)
「洋ラン展」
展示協力:越後洋らん倶楽部、新潟愛蘭会、新潟らんの集い
- 3月3日(火)～3月15日(日)
「～新潟の草花～ 雪割草展」
展示協力:Ashisu
- 3月21日(土・祝)～3月29日(日)
「クリスマスローズ展」
食と花の世界フォーラムにいがた・新潟県立植物園共催

花と緑の教室

※会場(または集合場所)「花と緑の情報センター2階 研修室」
※要申込(開催日の1カ月前から電話受付)

- 1月8日(木)10:00～11:30
「植物園花散歩⑨」
定員:15名/参加費:500円(温室入館料込み)
講師:久原泰雅(当園職員)
- 1月11日(日)13:30～15:00
植物学講座「モモ・カシワ・アオイ～植物の名前～」
定員:30名/参加費:300円/講師:森田竜義(新潟大学名誉教授)
- 2月1日(日)10:00～11:30
「植物を使った節分飾りをつくろう!」
定員:15名/参加費:300円/講師:植物園友の会
- 2月8日(日)13:30～15:00
植物学講座「DNAに基づく分類体系」
定員:30名/参加費:300円/講師:森田竜義(新潟大学名誉教授)
- 2月12日(日)10:00～11:30
「植物園花散歩⑩」
定員:15名/参加費:300円/講師:倉重祐二(当園副園長)
- 3月12日(日)10:00～11:30
「植物園花散歩⑪」
定員:15名/参加費:300円/講師:林寛子(当園職員)
- 3月15日(日)10:00～11:30
「ドライフラワーを使った簡単アレンジメント」
定員:15名/参加費:300円/講師:植物園友の会
- 3月21日(土・祝)13:00～14:30
「クリスマスローズを咲かせるコツ
～ガーデンハイブリッドの育て方」
定員:50名/参加費:300円/講師:金子明人(趣味の園芸講師)
- 3月22日(日)13:00～14:30
「クリスマスローズを咲かせるコツ
～原種・交配種の育て方」
定員:50名/参加費:300円/講師:金子明人(趣味の園芸講師)

屋外イルミネーション
14mのツリーとひかりのこみち2014

年末年始もイルミネーションをお楽しみください。
12月30日(火)～1月3日(土)、1月10日(土)・11日(日)
16:00～20:00



●観賞温室利用案内

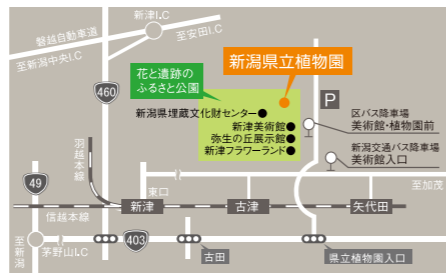
開館/9:30～16:30(入館締切16:00)
入館料/大人600円、シルバー(65歳以上)500円、高校生・学生300円(要学生証提示)
小中学生100円 ※土日祝日は小中学生の入館料無料

●観賞温室開館カレンダー(●休館日)

1					2					3				
日	月	火	水	木	日	月	火	水	木	日	月	火	水	木
●	●	●	●	1	2	●	●	●	4	1	●	●	●	4
●	●	●	●	2	●	●	●	●	5	●	●	●	●	5
●	●	●	●	3	●	●	●	●	6	●	●	●	●	6
●	●	●	●	4	●	●	●	●	7	●	●	●	●	7
●	●	●	●	5	●	●	●	●	8	●	●	●	●	8
●	●	●	●	6	●	●	●	●	9	●	●	●	●	9
●	●	●	●	7	●	●	●	●	10	●	●	●	●	10
●	●	●	●	8	●	●	●	●	11	●	●	●	●	11
●	●	●	●	9	●	●	●	●	12	●	●	●	●	12
●	●	●	●	10	●	●	●	●	13	●	●	●	●	13
●	●	●	●	11	●	●	●	●	14	●	●	●	●	14
●	●	●	●	12	●	●	●	●	15	●	●	●	●	15
●	●	●	●	13	●	●	●	●	16	●	●	●	●	16
●	●	●	●	14	●	●	●	●	17	●	●	●	●	17
●	●	●	●	15	●	●	●	●	18	●	●	●	●	18
●	●	●	●	16	●	●	●	●	19	●	●	●	●	19
●	●	●	●	17	●	●	●	●	20	●	●	●	●	20
●	●	●	●	18	●	●	●	●	21	●	●	●	●	21
●	●	●	●	19	●	●	●	●	22	●	●	●	●	22
●	●	●	●	20	●	●	●	●	23	●	●	●	●	23
●	●	●	●	21	●	●	●	●	24	●	●	●	●	24
●	●	●	●	22	●	●	●	●	25	●	●	●	●	25
●	●	●	●	23	●	●	●	●	26	●	●	●	●	26
●	●	●	●	24	●	●	●	●	27	●	●	●	●	27
●	●	●	●	25	●	●	●	●	28	●	●	●	●	28
●	●	●	●	26	●	●	●	●	29	●	●	●	●	29
●	●	●	●	27	●	●	●	●	30	●	●	●	●	30
●	●	●	●	28	●	●	●	●	31	●	●	●	●	31
●	●	●	●	29	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
●	●	●	●	30	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
●	●	●	●	31	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●

●交通アクセス ※駐車場無料(350台収容)

高速道路/磐越自動車道新潟ICから国道403号三条・加茂方面へ約15分
一般道路/(新潟方面から)国道49号茅野山ICから国道403号経由約20分
JR/信越線古津駅から徒歩約25分
バス/区バス:新潟駅東口から「うららこすど」行き「美術館・植物園前」下車徒歩約1分
新潟交通:新潟駅東口から「矢代田経由白根・湯東営業所」行き
「新潟美術館入口」下車徒歩約10分



新潟県立植物園

〒956-0845 新潟市秋葉区金津186番地
TEL.0250-24-6465 FAX.0250-24-6410
Eメール botanical@greenery-niigata.or.jp
ホームページ http://botanical.greenery-niigata.or.jp/
指定管理者 国際総合学園・都市緑花センターグループ



新潟県立植物園

植物園だより



ナナカマド

Sorbus commixta
(バラ科)

北海道、本州、四国、九州の山地から亜高山に生育する高さ10mを越えるバラ科の落葉高木。葉は奇数羽状複葉で枝先に集まり6～7月に多数の白い花をつけ、秋に実が赤く熟す。

新潟でも公園樹や街路樹、庭木として多く植栽されている。紅葉も素晴らしいが、雪景色の中に真っ赤な実を房状につけた木を見つけたことがあるだろう。

ナナカマドの由来は燃えづらく「七度窯に入れても燃えない」からという説がある。材が固く火付きは悪いが、一端燃え始めると長く燃える性質がある

(田中良明)

富樫信平画 S57.10.2 荒川町産



カラタチバナ「前田の誉」



栃尾てまり



小千谷縮(写真提供:小千谷織物同業協同組合)



過去のオモトの展示

新潟の古典園芸植物展 植物と冬のしごと展

観賞温室第2室 企画展示

平成27年1|4(日) - 2|1(日)

新春の企画展示は、江戸時代から続く古典園芸植物のなかでも、新潟を代表する百両金(カラタチバナ)、紫金牛(ヤブコウジ)、万年青(オモト)を中心に展示や栽培の歴史を解説します。特にカラタチバナとヤブコウジは、全国でも新潟県を中心として栽培や品種改良が行われています。今回は地元栽培家の協力を得て、普段目にするのできないコレクションを特別に公開します。また、お正月らしい松竹梅や千両、万両などの縁起の良い植物もお楽しみいただけます。

「植物と冬のしごと展」では、雪国新潟で冬のしごととして行われ、植物を材料とした織物や工芸品に着目しました。

今回の展示では、日本三大古布のひとつであるシナノキの「しな布」(村上市山北地域~山形県鶴岡)、古くから名産品として名高いアサを材料とした「小千谷縮」(小千谷市)や「越後上布」(南魚沼市塩沢地域)、新潟最後の編織でワタ(綿)を材料とする「小須戸編」、ゼンマイの毛を芯につかった色鮮やかな「栃尾てまり」(長岡市栃尾地域)など、新潟が全国、世界に誇る工芸品の世界を植物の面からご紹介します。

アザレアの古品種 大八州



新潟県が作出した「越黄冠」



アザレア展／チューリップ展 にいがたの花

観賞温室第2室 企画展示

どちらも全国一の生産量と長い栽培と品種改良の歴史を誇るアザレアとチューリップ。寒い冬に一足早い春を感じられる、花の名産地新潟ならではの展示です。華やかさや多彩な品種は他では見られない規模を誇り、毎年楽しみにしていただいている方も多く、好評をいただいています。

アザレア展 平成27年2|4(水) - 3|8(日)

全国の生産量の9割を新潟県が占めるアザレア。今回の展示では、大正~昭和時代初期にヨーロッパから渡来し、現在は目にするのできない古品種から、新潟でつくりだされている最新の品種まで、当園が誇る200品種1,000鉢のコレクションを展示します。

チューリップ展 平成27年3|10(火) - 4|5(日)

切花生産量全国第1位、球根生産量全国第2位を誇るチューリップ王国新潟。一大生産地となるまでの歴史とともに、新潟県がつくりだした新しい品種を含む30品種15,000本を期間中かわるがわるご紹介します。

「洋ラン、雪割草、クリスマスローズ展」で一足早い春を満喫!

観賞温室第3室2階 特別展示

観賞温室第3室2階では、2月17日から3月29日まで、新潟にゆかりの深い3種類の植物の特別展示を行います。県内愛好会の出展による洋ラン展にはじまり、平成20年に「新潟県の草花」に指定された雪割草、新潟県での生産、品種改良がさかんなクリスマスローズ展へと続きます。それぞれの植物がもつ魅力を味わうことができる貴重な機会です。アザレア、チューリップ展と合わせてご覧いただけますので、ぜひお出かけください。

洋ラン展 2|17(火) - 3|1(日)

越後洋らん倶楽部、新潟愛蘭会、新潟らんの集い各愛好会会員の出展により、みなさんが丹精して育てたランの豪華な美しさや魅力をお楽しみいただけます。

雪割草展 3|3(火) - 15(日)

新潟県は国内で限られた雪割草の自生地であり、保全活動もさかんである一方、生産や品種改良にも力が入られており、「新潟県の草花」(平成20年3月指定)となっています。野生種の自生地での楚々とした美しさはもちろん、花形、色の多様な園芸品種をご覧いただけます。

クリスマスローズ展 3|21(土・祝) - 29(日)

会場をいっぱいにつかって、自生地風の植栽、多彩なクリスマスローズの花形や色なども多数展示し、多様さが魅力のクリスマスローズを存分に楽しめる展示となります。

期間中は趣味の園芸講師の金子明人さんを講師に迎えた講演会と相談コーナー、押し花教室、即売会も行う予定ですので、お楽しみに。



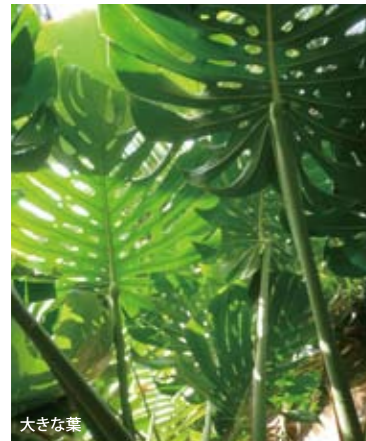
園内
ウォッチング

温室●熱帯植物ドームに怪物現る?!

熱帯植物ドームにある岩山の壁を見上げると、大きな葉をうっそうと茂らせ、茎から根を伸ばして壁をよじ登っているように見える、まるで怪物のような植物と出会うことができます。その怪物の名前は、モンステラ。名前はラテン語で怪物を意味するモンストラムにちなんでいます。英語ではモンスターです。

モンステラの仲間は、アメリカの熱帯地域に30種類ほどが分布する、つる性の植物です。モンステラは、メキシコからパナマに自生します。幼葉は小さなハート型の葉ですが、成葉になるにつれ沢山の穴があき、大きく切れ込み、大きいものでは80cmにもなります。つるは長さが6mにも伸び、木質化した茎からは、気根という根を出し、自生地の熱帯では他の植物や岩に絡みついて生きています。

南国の雰囲気漂う姿が人気で、観葉植物として親しまれていますが、植物園では花が咲き、独特な形の仏炎苞がその周りをくるむようにつきます。不定期に咲くので、来館した際に花を探してみるのも楽しいと思います。(小日向美香)



大きな葉



気根で岩に絡みつく



果実



花はミスパショウのような形

園内
ウォッチング

園地●

雪の降った翌日になると子供たちの楽しげな声が聞こえてきます。芝生広場に接する斜面のソリ遊びの歓声です。晴れた週末ともなれば多くの親子が思い思いにコースを作ってごった返すほどです。

貸ソリもありますので、ご利用いただけます。なお、安全のため、ソリは決められた雪遊びエリアでお楽しみください。

また、冬になると池にはたくさんの冬鳥が集まるので、バードウォッチングも楽しめます。コガモの数が最も多いようですが、マガモ、カイツブリ、カワウなどが見られます。ふだんゆったりとしているカモの群れがざわついていたら、上空を見上げてください。ハヤブサやオオタカがホバリングしてカモを狙っている姿が見られることもあります。冬の自然観察もお楽しみください。(田中良明)



植物園ニュース 2015.winter

NEWS 1

新潟県花いっぱいコンクール 最優秀賞・優秀賞受賞作品の展示

今年で47回を迎える新潟県花いっぱいコンクール(主催:あしたの新潟県を創る運動協会・共催:公益財団法人新潟県都市緑花センター)は、「県内に花いっぱい運動を広め、新潟県を、花いっぱいの県にしたい」、「花いっぱい活動を通じて、人々が心を通わせて暮らすことのできる地域をつくりたい」を目的に開催されています。

今年度は5つの部門を設けて参加団体を募集し、県内各地から37団体に応募いただき、当園で審査会と表彰式を行いました。最優秀賞を受賞した5団体と優秀賞を受賞した6団体の活動の様子を模造紙にまとめた作品展示も行い、今後は大潟水と森公園、佐渡地域、長岡市緑花センター「花テラス」で展示を行う予定です。

新潟県立植物園では、学校や地域を花と緑でいっぱいになるよう、これからもコンクールを支援していきたいと考えています。(倉重祐二)



表彰式の様子



喜びの言葉を発表する桂小学校(長岡市)の児童



受賞作品はキクと共に展示

NEWS 2

NHK新潟ラジオセンター「朝の随想」

NHK新潟放送局で、40周年を迎える長寿ラジオ番組「朝の随想」に今年10月から半年間の予定で出演しています。

この番組では、これまでに、さまざまな分野で活躍する400人以上の方が、新潟の豊かな自然や歴史・文化、人生の歩みや、打ち込んできたお仕事の内容などについて、お話しされているそうです。

平成27年の3月末まで、毎週月曜日の朝7時40分前後の4分程度の番組ですが、植物の意外な話題や、魅力をお伝えしたいと思っています。



毎回苦勞しながら原稿を読んでいます



NHK新潟放送局

10月は「紅茶、烏龍茶、緑茶」「新潟にはヒガンバナが少ない?」「我流烏龍茶の入れ方」「イギリスと紅茶」「越後七不思議の謎」、11月は「織田信長とハーブ」「身近なハーブ」「ゼンマイ綿と栃尾手まり」「くるい咲き」を放送しました。

聞き逃した方や県外の方は、放送終了後にNHK新潟のホームページで1週間のみ視聴いただけます。ただし、音声ファイルはWindows Media Playerにのみ対応しているようですので、ブラウザはインターネットエクスプローラを使う必要があります。

<http://www.nhk.or.jp/niigata/program/b-det0003.html>

また、今号から記事を掲載しますので、6ページの記事「朝の随想セレクション」もご覧ください。(倉重祐二)

NEWS 3

ネイチャーアクアリウムパーティ参加者の来園

10月28日(火)に、株式会社アクアデザインアmanoが主催する「ネイチャーアクアリウムパーティ 2014」に参加した方々が、当園の水中庭園を見学しました。ネイチャーアクアリウムパーティは、2001年から当社が開催する水草レイアウトコンテストの表彰式を兼ねたイベントで、今年も東京国際フォーラムで行われ、64ヶ国、2,320作品の応募があったそうです。

ネイチャーアクアリウムとは、「水草を栽培する水槽の展示方法の一つで、水草を育てることで水槽の中に良好な環境をつくり、さらに魚やエビなどの生き物を一緒に育てることで自然の生態系を再現するもの(www.adana.co.jpより抜粋)」を指します。新潟市西蒲区にある同社の代表取締役社長の天野尚氏が提唱したもので、完成されたものは自然の風景を切り取ったような美しいレイアウトを持つため、そのスタイルや氏の愛好者が世界中にいます。

当園の水中庭園には大小6個の水槽があり、その管理を当社に委託しています。その中の幅5.5mの水槽は、日本に自生する水生植物を展示しており、当社によるレイアウトが10年以上も美しい状態で維持されていることや、普段見ることのない大型の濾過機などが設置されていることもあり、注目を集めていました。

新潟市西蒲区漆山にある同社のネイチャーアクアリウムギャラリーでは、見事に管理された水槽が常時40作品も展示されていますので、一度足を運んでみてはいかがでしょうか。(久原泰雄)



来園されたネイチャーアクアリウム参加者の見学の様子



新潟の植物 冬の貴婦人 クリスマスローズ



蜜腺が筒状に弁化したセミダブル
(半八重咲き)



ダブル(八重咲き)

クリスマスローズと呼ばれている植物が日本に導入されたのは明治時代とされていますが、当時はほかの園芸植物にくらべて華やかさがなかったことから人気が出なかったようです。

近年になって、新潟の生産者がイギリスで出会った八重咲きのクリスマスローズに可能性を見出し、ほどなく県内の生産と品種改良が盛んになりました。

花のしゅみにふれると、花びらのようにみえるがく片、本来の花びらにあたる蜜腺、おしべ、めしべからなります。がく片や蜜腺が弁化するセミダブル、ダブルなどの花型が生まれます。交配によって、花形だけでなく、色やようなど、実に多彩な花が得られることも魅力のひとつで、全国的な人気が続いています。

現在は、新潟県の名産品のひとつとなって、新たな改良も進められており、2月末から3月にかけて各地で展示会が開かれます。当園でも3月に展示即売会を開催(3ページ参照)しますので、ぜひご覧いただきたいと思います。(林 寛子)

日本では、ヘレボルス属(*Helleborus*)に分類される植物を、園芸品種を含めクリスマスローズと総称するが、海外ではクリスマスのころ開花するニゲル(*H.niger*)のみをさす。人気の中心となった園芸品種(オリエンタリスハイブリッド)の交配親である*H.orientalis*は、レント(四旬節2.3月~4月)に咲くことからレンテンローズと呼ばれる。



クリスマスの時期に開花する
本来のクリスマスローズ、ニゲル



つぼみの小花をつけるフェチドゥス
(野生種 *H.foetidus*)

NHK新潟ラジオセンター 「朝の随想」セレクション

ゼンマイ綿と栃尾手まり (11月17日放送)

私は子供の頃から、なんでも集めて、分類するのが性分で、植物の分類に興味を持ったのもそんなことが影響していると思います。昔から切手、本、植物、音楽を聴くので結果として集まったのですがCD、などなど、とにかく集めだすと、全部集めたいという気持ちがあります。それと伝統工芸品も好きで、気味悪がられるのですが、市松人形や、植物の柄の描かれたカップや花瓶なども集めています。

新潟に来てから興味を持って集めているのが、手まりです。手まりは昔は蹴鞠や子供の遊び道具でしたが、戦後にゴムまりが普及すると昔ながらのまりは急速に絶えてしまいました。現在全国に残っているものは、美しい刺繍で模様がほどこされたもので、装飾に用いられます。

さて、新潟で手まりと言えば、栃尾が有名ですね。私がこの手まりを知ったのは、長岡市を通じて皇室に献上する手まりの植物のデザインを相談されたことがあるためです。その後に栃尾の道の駅で販売されている手まりを見に行ったのですが、多様な模様で、非常にこった美しい刺繍がほどこされていたのが印象に残っています。それからは、5月に長岡市の栃尾で3,000個以上の手まりが展示即売される「てまりまつり」に毎年出かけています。

さて、栃尾手まりの特徴は、何と言っても、手まりの芯に綿や発泡スチ



ゼンマイの新葉の毛を集めたゼンマイ綿



ゼンマイを芯にして、木綿糸を巻きつけて地玉をつくり、絹糸や刺繍糸で模様をかか

ロールではなく、ゼンマイ綿を使っていることです。私は、ゼンマイ綿という言葉を知りませんでした。これはクルクルと巻いたゼンマイの新芽に生えている茶色い毛を集めて綿のようにしたもののことだそうです。これを手まりの芯にするには、相当量のゼンマイを取らなければならないでしょうし、大変な手間だと思います。

そこで、栃尾てまりの会に連絡をして、その歴史やつくり方をお聞きしました。ゼンマイは山菜として食用にされますし、また乾燥させることによって、長期保存が可能です。栃尾や各地の山間部では、春にはゼンマイを大量に摘んで、不要な毛を取っていたのですが、それを手まりの芯に利用したということです。当園の園長からは、昔はゼンマイ綿の布団があったと聞きました。貴重な綿の代用として、山の恵みを最大限に利用していたのですね。

手まりもゼンマイで球の芯をつくり、そこに太い木綿糸を巻いて形を整え、さらに細かい木綿糸、そして絹糸や刺繍糸で模様をつくります。1756年に書かれた「越後名寄」を調べてみると、栃尾は絹、紬木、綿などの産地だったので、地域で調達した材料でつくられた遊び道具だったのですね。今は200種類以上の模様を保存しているそうです。

地域の伝統と植物の文化的な利用を継承している栃尾てまりの会を応援したいと思っています。(倉重祐二)



春の植物園での展示



植物をモチーフした柄が多い(クレマチス、コデマリ、黄水仙)



友の会通信



秋の研修旅行の様子



親子教室「ハロウィンスイーツづくり」



植物学講座「水辺を彩るスイレン科の植物たち」



「クリスマス展」の友の会の展示

友の会では、毎年恒例の「秋の研修旅行」として日光植物園を訪れた他、植物学講座として、「現代のプラントハンティング～自生地から植物園へ～」(講師:植物園副園長 倉重祐二)や「水辺を彩るスイレン科の植物たち」(講師:新潟大学准教授 志賀隆)、親子教室として「ハロウィンスイーツづくり」や「秋植え球根の寄せ植え」「クリスマスリースづくり」を行い、多くの方に参加いただきました。

12月14日には当会顧問の石澤 進先生(新潟大学元教授、積雪地域植物研究所所長)より、「佐渡島における植物分布上の魅力」と題した公開の植物学講座が聞かれ、会員、非会員問わず多くの参加者が熱心に耳をかたむけていました。

植物園恒例の「クリスマス展」では、昨年同様、展示の一角に友の会の展示を行っています。今年は会員によるリースやオブジェなどの力作が揃い、大人から小さなお子さんまで、皆さんに大変喜んでいただいています。展示は12月26日までとなりますが、クリスマス展にご来園の際は是非、会員が作成した力作を楽しんでご覧ください。

新潟県立植物園 友の会 平成26年度 会員募集

新潟県立植物園友の会は、植物に興味があり、植物園の事業・活動に賛同する方の会です。平成26年度の会員を募集します。詳細は
友の会事務局 (TEL.0250-24-6465)
までお問い合わせください。

年会費

- 個人会員 2,000円
- ファミリー会員 3,000円
- 賛助会員(一口) 10,000円
- 団体会員 5,000円

※4月より翌年3月まで。年度途中入会での割引はございません。

新潟県立植物園友の会ブログを開設しています。会の最新情報、会員のつぶやき、発見などをどんどん更新していきます。ぜひ、ご覧下さい。情報はE-mail: bgn.tomonokai@gmail.comまで。

ブログURL http://blogs.yahoo.co.jp/bgn_tomonokai

賛助会員 (わたし達は「新潟県立植物園 友の会」の活動を応援しています) ●有限会社齋藤不動産 ●株式会社アート